

## 粘性土質路床における アスファルト 舗装 の 路床 路盤 工 事 の 一 工 法

四国地建香川国道工事事務所

富 山 勲

アスファルト舗装では、路床路盤の欠陥がそのまままで現われ、少しのこまかしも利がたいことは、よく知られている。粘性土質の場合、特にこの傾向が強い。即ち、毛管現象が起りやすく、含水すれば急速に支持力を失う。この場合自然条件の影響を少なくし、支持力の増加を計るために、土砂の安定工法を用い、表層の負担を軽くしてやらなければならない。

従来行われてきたアスファルト舗装は、既成路床で充分安定した状態で、舗装が施こされたので、あまり問題に成らなかったが、近時は改良即舗装というケースが多くなり、路床路盤について考え方が相当嚴重になってきた。

即ち路床土として不適當な土砂はなるべく用いないようにし、又止むを得ざる場合には、土砂の安定工法が研究されている。

松江有料道路は、一部粘性土質路床があり、山陰特有の天候の悪条件と重なり、舗装工法について苦労したが、この工法を紹介いたし、参考に供するものである。